

8. 河道特性

渚滑川は、その源を北海道のほぼ中央部にある北見山地の天塩岳(標高 1,558m)に発し、山間部の滝上町を流れ、サクルー川、立牛川等の支川を合わせ、紋別市上渚滑において平野部に出てウツツ川等の支川を合わせて、紋別市渚滑町においてオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長84km、流域面積 1,240km²の一級河川である。

1) 上流部(源流(天塩岳)～オシラネップ川合流点付近)

河床勾配は、源流からオシラネップ川合流点までの上流部は 1/100 程度の急勾配である。

上流部の山間部では、エゾマツやトドマツ、ダケカンバ等の混生する針広混交林が広く分布している。山間部を抜けると大小さまざまな滝が連なり、明瞭な瀬・淵がある一方、岩河床が露出している箇所もみられ、流れの多様な溪流河川を形成し、サクラマス等の魚類が生息している。

2) 中流部(オシラネップ川合流点付近～ウツツ川合流点付近)

河床勾配は、オシラネップ川合流点からウツツ川合流点に至る中流部では約 1/350～約 1/450 程度である。

中流部は、蛇行を繰り返しながら牧草地、畑地帯を流下し、明瞭な瀬・淵やワンド、湧水等がみられ、多様な河川環境となっている。山地と連続した河岸には砂礫質の砂州が形成され、渚滑川を代表するケショウヤナギ群落が多く分布している他、上渚滑地点より上流は両岸が段丘となっており、ヤチダモ・ハルニレ群落が連続して分布している。山付き部の河畔林には国の天然記念物に指定されているオジロワシ、オオワシが多く集まっている他、シジュウカラ、アオジ、ヤマゲラ等の森林性の鳥類が生息している。また、水辺では、アオサギ、オシドリ、カワアイサ、カワセミ等の水辺を利用する鳥類が生息・繁殖している。魚類ではエゾウグイ、フクドジョウ、トミヨ等が生息している他、サケ、サクラマス、カラフトマス等の遡上が見られ、幼生期にサケ科魚類の鰓に寄生するカワシンジュガイが生息している。

3) 下流部(ウツツ川合流点付近～河口)

河床勾配は、ウツツ川から河口までの下流部では約 1/850 程度となっている。

ウツツ川合流点から河口までの下流部は、大きく蛇行して牧草地帯、紋別市渚滑町市街部を流下し、河口に至っている。中流部から連続する山付き部の河畔林にはオジロワシ、オオワシ等が多く集まっており、中州等で遡上してきたサケ・マス類を採餌する姿が見られる等、越冬地や渡りの中継地として重要な生息環境となっている。広い高水敷は採草地として利用されており、オオジシギ、ヒバリ等の草原性の鳥類が生息・繁殖している。また、魚類ではカワヤツメやイトヨ日本海型、エゾハナカジカ等の回遊性の魚類が生息している。

河口付近の緩やかな流れは感潮域となっており、ヌマガレイ等の汽水性の魚類が生息している他、マガモやコチドリ等のカモ類、シギ・チドリ類の休息地、採餌地、ショウドウツバメ等の営巣地となっている。また、河口部左岸の砂丘地にはハマニンニクやハマナス等の砂丘植生が生育している。

渚滑川水系 渚滑川 平均河床高縦断面図

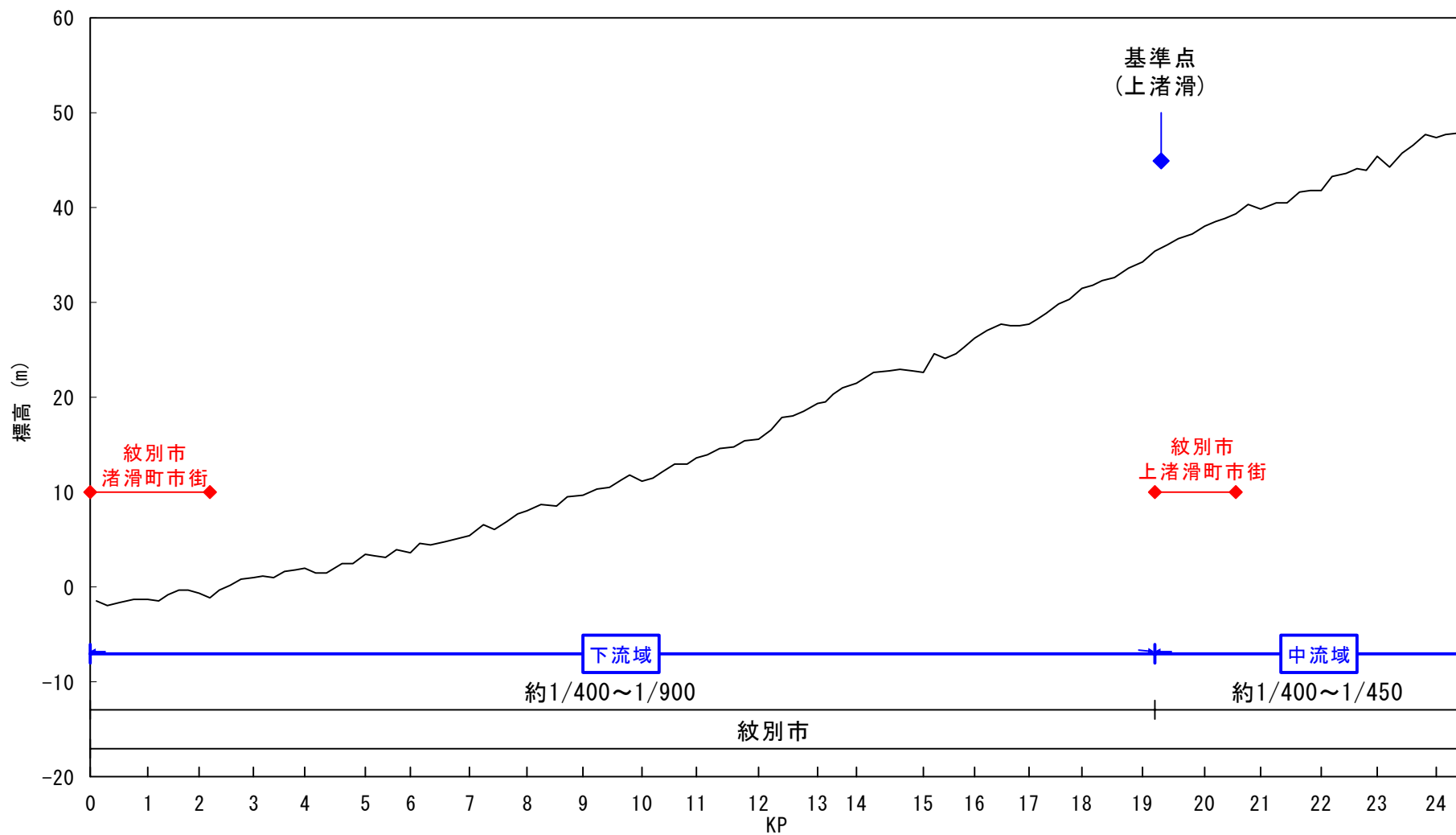


図 8-1 渚滑川水系 渚滑川 河床高縦断面図 (直轄管理区間)